

学びは常に玉川の丘に用意されています。
通信教育部で学んだ先輩を中心に、現在の仕事や地域での活躍をインタビューします。

生涯学べ第13回 アーティストの創作活動を支援



村田達彦 遊工房アーティストスペースディレクター
2003年通信教育部で学芸員資格取得

2007

7月、韓国のソウル市国際会議場にて。アジア圏AIR国際会合。アジア域内におけるAIRのネットワークの現状と、可能性について検討した



2008

海外ではAIRの国際的なネットワーク機関「Res Artis」の総会が2年ごとに開催される。10月、オランダのアムステルダムでの総会に出席



私はずっと電機メーカーで技術者として働き、彫刻家の妻は創作活動のかたわら、地域の子どもたちに絵を教える教室などを続けてきました。エンジニアとアーティストの夫婦、互いに別の世界にいながら生活を共にしてきましたが、いずれはアートと関わる活動と一緒にやろうと考えていました。親戚に画家や芸大教授がいて、絵を見ることも好きだったので、アートの世界は身近に感じていました。それでもなかなか思い切れ

ず、ついに会社を辞めようと思ったのは五〇代半ば。辞める前に美術の勉強をしなければと思い、玉川に学芸員の資格も取れる通信教育部があることを知ったのです。二〇〇一年、五六歳で入学した私にとって、スクーリングで三十三数年ぶりに味わうキャンパス生活は、とても新鮮でした。自分の息子や娘くらいの若い学生たちと学び、西洋や東洋の美術史、教育原理など興味深い講義が多く、楽しかった記憶ばかりです。

翌〇二年には退職し、「遊工房アーティストスペース」に本格的に参画しました。医者だった父親がかつて診療所・結核療養所として使っていたスペースを生かし、ギャラリー、スタジオ、宿泊施設を備えた複合施設に改装。そこで「アーティスト・イン・レジデンス(AIR)」事業を始めました。アーティスト・イン・レジデンスとは、芸術家が滞在しながら作品を制作して発表できるようにお手伝いするプログラムです。「AIR」の国際的なネットワーク機関「Res Artis」にも早々に加盟しました。

私自身も若い頃に海外で工場実

創作活動の場を提供することで
若いアーティストの成長と活躍を支えたい

2008

11月に現代アート界で著名な戯嘔(あいおう)さんが遊工房へ。開催中のリトアニアの作家による成果発表展で、国内外の若手作家を激励された



2011



銀座のポーラ ミュージアム アネックスでのValerio Berruti展。2010年の3カ月間、遊工房に滞在した際に地元小学校の子どもたちの生き生きした活動をテーマにした作品をまとめた

習を体験し、異文化にふれることの大切さを実感しました。妻も海外で制作に携わった経験から、若い世代にそうした機会をつくりたいという思いがありました。二十数年前から自宅で海外の技術者や建築家を受け入れてきましたが、「遊工房アートのスペース」で本格的に展開することになったのです。これまで滞在したアーティストは二十数カ国一八〇人ほど。一方、ギャラリーは日本の若手作家が実験的に作品発表する場になっているので、ここに滞在する海外のアーティストとの交流も生まれています。互いに刺激し合うことで、作品制作への意欲につながっているように感じますね。

私たちがもう一つ大事にしてきたのは、アート活動を通して身近にアートに接してもらうことです。近くの都立善福寺公園で毎年秋に野外アート展「トロールの森」を開催しています。国内外のアーティストが、公園という開かれた空間で作品をつくり、地域の人たちに現代アートと親しんでもらおうと始めたものです。数年間は試行錯誤が続き、ふだんの散歩コ

スにいきなり不思議な作品が出現するのを敬遠する声もありましたが、年々、地元の大イベントとして楽しんでくれる人も増えていきます。

春には地元の小学四年生がアーティストと一緒に制作した作品を展示するプロジェクト「トロールの森・春展」も行い、子どもたちの感性で公園の森が生き生きと彩られます。昨年は参加した子どもや先生たちと画材を集め、東日本大震災で被災された南相馬市の小学校に送りました。「トロールの森」も一〇年を経て、やっと地域

に定着したようです。今年で一一年目を迎え、私たちはまた原点に戻ろうと思っっています。本来の「AIR」やギャラリー展示に重点を置いてアーティストの創作活動を支援し、アートの社会的役割と重要性を伝えたい。この事業の醍醐味は、アーティストが創作していくプロセスと身近に接し、側面から支援することです。さまざまな表現を通して発信される若い力を見出し、アーティストの存在がもっと社会に受け入れられるような環境づくりを目指したいのです。

創作活動を支援する アーティスト・イン・レジデンス (AIR)

芸術家が滞在し制作することで、一般的にはギャラリー、創作スタジオ、滞在施設(レジデンス)を備えたアートの複合施設からなっている。滞在制作、ワークショップ、展示、アートを介した交流の場などのプログラムを提供。公共団体、非営利団体(美術館・財団)、民間企業、個人が運営するものがある。AIRの世界ネットワーク「Res Artis (レス・アルティス)」には世界中の400カ所のAIRが加盟し、日本では各地で展開している30件ほどのAIRの情報を提供するウェブサイト「AIR_J (エア・ジェイ)」がある。

「遊工房アートスペース」では、海外の作家に滞在制作や発表の場を提供すると共に、ギャラリーでは主に日本在住のアーティストの作品を展示し、トークイベント、ワークショップ等を開催している。

遊工房アートスペース
東京都杉並区善福寺3-2-10 ☎03-5930-5009
<http://www.youkobo.co.jp>



遊工房は特徴ある2つの宿泊施設を伴った創作スタジオと展示用のギャラリーで構成される。外観とスタジオ内部